Jordan 標準形

経済動学 2017q1

mail@kenjisato.jp

ジョルダン標準形 (Jordan canonical form) を計算してみよう.

1 ジョルダン標準形

 $J_r(\lambda) \in \mathbb{C}^{r \times r}$ を次のような形の行列とする. 何も書かれていない部分はゼロとする.

$$J_r(\lambda) = egin{bmatrix} \lambda & 1 & & & & \\ & \lambda & \ddots & & & \\ & & \ddots & 1 & & \\ & & & \lambda & & \end{bmatrix}$$

行列がジョルダン標準形であるとは、次のようなブロック対角行列であることをいう:

$$\begin{bmatrix} J_{r_1}(\lambda_1) & & & & \\ & J_{r_2}(\lambda_2) & & & \\ & & \ddots & & \\ & & & J_{r_k}(\lambda_k) \end{bmatrix}.$$

 $\lambda_1, \dots, \lambda_k$ には重複があってもよい. 例えば,

はジョルダン標準形である.

自明なケースを使ってジョルダン標準形の計算方法を確認してみよう.

$$A_1 = \begin{bmatrix} 1 & 1 \\ 0 & 1 \end{bmatrix}.$$

固有値は

$$\det\left(A_1 - \lambda I\right) = 0$$

の解である. 計算するまでもなく, $\lambda = 1$ (2 重根) である. 固有ベクトルの1つは

$$(A_1 - \lambda I) p_1 = 0$$

の解 p_1 である. 解の1つは

$$p_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix}$$

である. 重複固有値に対する固有ベクトルは独立な次元を1つしか持たない. すなわち, 幾何的重複度が1である. このような場合には対角化はできない.

一般固有空間 $\ker(A_1-1)^2$ の基底を構成するために, 方程式

$$(A_1 - \lambda I) p_2 = p_1$$

を解く. 明示的に書けば、

$$\begin{bmatrix} 0 & 1 \\ 0 & 0 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} p_{21} \\ p_{22} \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix}$$

であるから、解の1つは

$$p_2 = \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \end{bmatrix}$$

である. このようにして得られた

$$P = \begin{bmatrix} p_1 & p_2 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{bmatrix}$$

が一般固有空間の基底をなす. したがって、

$$P^{-1}A_1P = J_2(1)$$

となる. ジョルダン細胞のサイズが大きい場合には

$$(A - \lambda I) p_{n+1} = p_n$$

を満たす p_{n+1} を探すステップを必要なだけ繰り返せばよい.

2 例

次に

$$A_2 = \begin{bmatrix} 2 & 0 & 0 \\ 0 & 2 & 0 \\ 1 & 0 & 2 \end{bmatrix}$$

のジョルダン標準形を計算してみよう.

$$\det(A_2 - \lambda I) = \begin{vmatrix} 2 - \lambda & 0 & 0 \\ 0 & 2 - \lambda & 0 \\ 1 & 0 & 2 - \lambda \end{vmatrix}$$
$$= (2 - \lambda)^3$$
$$= 0$$

を解くと、固有値 $\lambda = 2$ (3 重根) を得る.

$$(A_2 - 2I) p_1 = 0$$

の解を求めると、

$$\begin{bmatrix} 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \\ 1 & 0 & 0 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} p_{11} \\ p_{12} \\ p_{13} \end{bmatrix} = 0$$

より,

$$\begin{bmatrix} 0 \\ 0 \\ p_{11} \end{bmatrix} = 0$$

を得る. 2つの独立な固有ベクトルをもち、 例えば

$$p_1 = \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \\ 1 \end{bmatrix}, \quad p_1' = \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix}$$

が固有ベクトルである. 次に、一般固有ベクトル p_2 を

$$\begin{bmatrix} 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \\ 1 & 0 & 0 \end{bmatrix} p_2 = p_1$$

の解として求める.

$$\begin{bmatrix} 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \\ 1 & 0 & 0 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} p_{21} \\ p_{22} \\ p_{23} \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \\ 1 \end{bmatrix}$$

より

$$p_{21} = 1$$

を得る. したがって, 例えば

$$p_2 = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{bmatrix}$$

と選べば

$$P = \begin{bmatrix} p_1 & p_2 & p_1' \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \\ 1 & 0 & 0 \end{bmatrix}$$

はジョルダン基底である.

$$P^{-1} = \begin{bmatrix} 0 & 0 & 1 \\ 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \end{bmatrix}$$

に注意して,

$$P^{-1}AP = \begin{bmatrix} 0 & 0 & 1 \\ 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 2 & 0 & 0 \\ 0 & 2 & 0 \\ 1 & 0 & 2 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \\ 1 & 0 & 0 \end{bmatrix}$$
$$= \begin{bmatrix} 0 & 0 & 1 \\ 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 0 & 2 & 0 \\ 0 & 0 & 2 \\ 2 & 1 & 0 \end{bmatrix}$$
$$= \begin{bmatrix} 2 & 1 & 0 \\ 0 & 2 & 0 \\ 0 & 0 & 2 \end{bmatrix}$$

を得る.

3 問題

問題1 次の行列のジョルダン標準形を求めよ.

$$A_{3} = \begin{bmatrix} 1 & j \\ j & -1 \end{bmatrix}$$

$$A_{4} = \begin{bmatrix} 2 & -3 & 2 \\ -5 & 8 & -6 \\ -8 & 12 & -9 \end{bmatrix}$$

問題2 ジョルダン細胞のべき乗

$$J_k(\lambda)^t, \quad t \in \mathbb{N}$$

を計算せよ. (ヒント:

$$J_k(\lambda) = \lambda I_k + N_k$$

$$=: \begin{bmatrix} \lambda & & & \\ & \lambda & & \\ & & \ddots & \\ & & & \lambda \end{bmatrix} + \begin{bmatrix} 0 & 1 & & \\ & 0 & \ddots & \\ & & \ddots & 1 \\ & & & 0 \end{bmatrix}$$

と分解したとき,

$$(\lambda I_k)N_k = N_k(\lambda I_k), \qquad (N_k)^k = 0$$

が成り立つことに注意せよ.)

問題 3 任意の行列 $A\in\mathbb{R}^{n\times n}$ に対し、適当な正則行列 V を選べば $V^{-1}AV$ が Jordan 標準形となるようにできる. この定理を用いて A の固有値 λ がすべて $|\lambda|<1$ を満たすとき

$$A^t \to 0, \quad t \to \infty$$

が成り立つことを示せ. 収束は要素ごとの収束を考えてよい.